

小杉谷集落跡

小杉谷村は 1923 年、屋久島国有林の伐採事業拠点として始まった。その前年には、この谷と安房港を結ぶ安房森林軌道の建設が始まっていた。この鉄道によって山から港までの木材運搬は比較的容易になり、小杉谷が島の伐採業の理想的な拠点となった。1920 年代半ばに島内の森林のほとんどが国有地となると、国内需要が高まり、小杉谷は一層賑わった。その後、第二次世界大戦後、小杉谷は国家再建のための木材供給に大きな役割を果たした。

小杉谷には、木こりなどの労働者が家族とともに暮らしていた。最盛期の 1960 年、村は 540 人の人口を抱え、小中一貫校には 150 人以上の子ども達に通っていた。しかし、やがて小杉谷の資源が尽き始めてしまった。しかしやがて、皆伐と、より高性能なチェーンソーの発明によって、谷の資源は枯渇し、この地域での伐採事業は終わりを告げた。村の伐採事務所は 1970 年に閉鎖され、その頃に最後の村人が去った。

トレイルからすぐの空き地には昔の学校の跡が見られ、付近には生徒や村の生活の写真が展示されている。屋根付きの休憩所の近くには、伐採事務所の場所を示す石碑があり、大杉から切り出した大きな断面で記念されている。

小杉谷から西へ、荒川トレイルは縄文杉方面へと続く（8km、約 3 時間 50 分）。トレイルを東へ行くと荒川登山口（2.6km、約 50 分）に至る。

3 月から 11 月まではテント式の携帯トイレブースが設置される。最も近い水洗トイレは荒川登山口にある。